互いにより高めあう研究大会を目指す

実行委員長　山下和洋氏
（全国福祉用具専門相談員協会副理事長）

ふくせん発足、Rテスト、サービス計画

全国福祉用具専門相談員協会（ふくせん）の初代理事長、私の父でもある山下一平（2013年7月に永眠）は福祉用具専門相談員の専門性や職能向上を常に考えていた。福祉用具専門相談員の職能団体としてのふくせんの立ち上げに始まり、当社が独自に行っていた福祉用具専門相談員として求められる知識や習熟度を問う「ヤマシタテスト」を「福祉用具専門相談員実力ランキングテスト」として業界全体の取り組みに広げた。また団体のトップとして、福祉用具専門相談員が、福祉用具サービスにおいて必要な理由や利用目標などを記録することの重要性を主張し、福祉用具サービス計画作成を運営基準へ位置づけることを主導した。

当時は、今より価格競争や納品の速さを重視する向きがあり、サービスの質や職能の向上のための取り組みについて、その必要性に疑問を抱いていた人も一定数いたと思う。しかし、今これらを否定的に捉える声はほとんどないのではないか。もちろん価格競争や納品スピードも大切な要素で否定するつもりは全くないが、介護保険制度に位置づけられたサービスである以上、福祉用具専門相談員に求められる専門性は、いかにその人にあった環境整備ができるかということ。そして、そのPDCAサイクルを回すために最も重要なツールとして、また、福祉用具サービスが必要なエビデンスとしてもサービス計画書の重要性の認識が一層高まっている。

こうした歴史の中で、福祉用具専門相談員研究大会も同様に自己研鑽・相互研鑽を積み、福祉用具専門相談員や福祉用具サービスの存在感を高める場として2019年からスタートした。その大会の実行委員長を務められることは感慨深いし、とてもありがたいことだ。しっかりと実行委員長としての責任を果たしたい。私情を挟むようで恐縮だが、生きていればこの大会の開催を誰よりも喜んだのは父かもしれない。草葉の陰から見守ってくれていると思う。

双方向のコミュニケーション活発に

演題発表するには時間も労力もかかるし、日々の業務の中で準備するのは大変だ。ただその中で、自分が大切にしていることや仲間と共有したいと思うテーマを選び抜き、より伝わるように分析や工夫を凝らす中で、新たに得られるものが必ずあるはずだし、自身の成長やサービスに繋がっていく。参加される方も、ぜひ真剣に耳を傾けて質問も積極的にしてもらいたい。そうした双方向のコミュニケーションが活発になればなるほど、より互いを高めあう大会になる。次の日から何か一つでも業務にフィードバックできれば参加した意義が大いにあったといえると思う。これまで以上に互いを高めあう大会を目指して全力で取り組んでいくので、多くの方のご参加をお待ちしている。